

## 2024 年度公益社団法人小さないのちのドア事業計画

### 2024 年度基本方針

公社) 小さないのちのドアは活動を開始してから今年で 6 年目を迎えます。当初はすべて民間の力で活動していましたが、2020 年 9 月より「若年妊婦等支援事業」、2021 年 4 月より「予期せぬ妊娠 SOS 事業」、また 2022 年 6 月より「特定妊産婦等居場所確保・自立支援事業」を兵庫県(神戸市との協調事業)より受託し活動を続けております。これらの事業のうち若年妊婦等支援事業や特定妊産婦等居場所確保・自立支援事業については 2024 年度から児童福祉法の改正に伴い「妊産婦等生活援助事業」として法定事業となる節目を迎えております。

新生児殺害遺棄事件の報道が相次ぎ、10、20 代の人工妊娠中絶の件数も増えています。私どもの相談窓口にも予期せぬ妊娠や中絶の相談が後を絶たしません。新生児の殺害事件につながりかねない相談は 2023 年度には 1 か月に 1 人の頻度で受けています。

頼る人がいない、住む所がない妊産婦の相談も常にあり、マタニティーホームは入居者が途切れたことはありません。入居された方と信頼関係を構築し、喜びの出産、各々に合わせた自立に向けて伴走しております。

これらのことを鑑み、2024 年の活動の基本方針を下記のように決めております。

なお、2024 年度から民間の助成金が大幅に減少します。今後さらにご支援の輪を広げていくことも目標としております。

### 2024 年度事業計画

1. 相談支援・生活支援体制の強化・充実
2. 自立支援に向けたサポートとアフターフォロー体制の強化・充実
3. 兵庫県下の高等学校での性教育の実施
4. 実家のない妊産婦に実家がわりとなる妊産婦ホストファミリーの実施
5. 居場所づくりの充実

#### 1. 相談支援・生活支援体制の強化・充実

現在、職員は相談支援員 8 名、母子支援員 7 名、生活支援員 3 名、事務員 2 名の体制となり、ボランティアも 50 名ほどの方が登録・活動している。24 時間の相談支援から同行支援、生活支援、自立支援と多岐にわたっての活動となり、対象となる妊産婦さんの支援期間も産後 1 年までと長期にわたるため、職員やボランティアのさらなる充実を図り、事業も拡大していくことができたらと考えている。また質の向上のために、昨年度はトラウマインフォームドケアの研修や、カウンセリング、メンタルヘルス研修を定期的実施し、医療・心理・精神面でのスキルアップを充実させてきた。今年度はさらにスタッフのステップアップのための研修を充実させていきたい。

また体制の充実を図ることで、よりきめ細やかな支援につながっていくため、生活支援や簡易な事務作業、広報活動を担ってもらえるボランティアの育成にも引き続き取り組みながら、職員・ボランティアの育成・強化を図っていききたい。

## 2. 自立支援に向けたサポートとアフターフォロー体制の強化・充実

自立支援に向け、兵庫県社会福祉法人経営者協議会やその他の企業・団体からの就労支援などが充実してきているが、職種が限られていることもあり、マッチングがまだ十分に機能していない。今年度はさらにサポート企業の開拓と就労支援に向けた資格取得等の支援を充実させていききたい。またマタニティホームの卒業生が地域の中で孤立しないように、定期的な寄付おすそ分け支援や、卒業生向けのイベントの開催なども実施し、アフターフォローを充実させていききたい。

## 3. 兵庫県下の高等学校での性教育の実施

昨年度よりマナ助産院を拠点に 2000 年から性教育グループとして活動してきた「いのち語り隊」を引き継ぎ、性教育活動に力を入れてきた。だがいのち語り隊への講演依頼の多くは、小学校や中学校が多く、相談を受ける中で、間違いや偏った性の知識が社会に蔓延していることを痛感し、まさに今悩んでいる世代に向けての性教育の必要性を感じている。いのち語り隊の活動とともに、Z 世代へのプレコンセプションケア事業を開始し、性に向き合い、からだやこころ、人生に向き合い、自分自身や身近な人たちとの関係を見つめなおせるような性教育、健康教育を実施していく。自立を目の前にして歩んでいる Z 世代への働きかけは、有意義な時期であることから、小さないのちのドアの事業を通して見えてきた社会の課題や状況を見つめながら、自他のいのちと性を大切に生きていく生き方を伝える性教育、健康教育を自立を前に歩む Z 世代に今年度は重点を置いて実施していききたい。

## 4. 実家のない妊産婦に実家がわりとなる妊産婦ホストファミリーの実施

居場所のない妊産婦に HOME をというコンセプトにマタニティホーム Musubi を開設したが、マタニティホームでの生活は時間が限られており、多くの時間を過ごす地域の中にも温かい場所を作る必要性を感じてきた。これまでかかわってきた女性の多くは、実家との関係が不和であったり、音信不通であったり、非虐待歴があったりと、実家は戻れる場所ではない女性ばかりであった。だが人は、帰る場所があるからこそ、外に向かっていくことができるため、私だけの居場所、私だけの家が地域の中にあることは、親子にとって大きな力となっていくと考え、実家代わりとなる妊産婦ホストファミリーを地域の中に増やしていくことができたらと考えている。研修自体はスタートさせてきたが、今年度は実際に運用ができるように体制を整え、実際にマッチングをして、妊産婦ホストファミリー支援を開始していききたい。

#### 4. 居場所づくりの充実

新生児遺棄事件の加害女性の状況や、これまでかかわった女性たちの中には、家に帰れない、夜の街を彷徨う若年女性たちがいることがわかっている。夜の街をさ迷う女性たちの背景には成育歴の中での傷つきや人間関係での傷つきなど、様々な背景を持っており、複雑に絡み合った課題は簡単には解決することができず、家庭に安全安心を求めることができないために、行き場を失い、街を彷徨っている。そんな中で性犯罪等に巻き込まれてしまうケースもあり、予期せぬ妊娠などに繋がりがねない若年女性たちからの相談も少なくない。社会の中で安全安心な居場所を提供することは、予期せぬ妊娠の予防とともに、関係機関等と連携しながら複雑な課題を解決していく糸口を見つけていく事が期待される。昨年度は三宮の hanazono café で 3 回、南京町で居場所カフェ 1 回、またチラシ配布を 6 回開催をすることができたが、今年度はもう少し回数を増やして定期開催できるように体制を整え、三宮だけではなく、尼崎など他の繁華街でのヘルプカードの配布や、Musubi cafe の開催など、より相談しやすい窓口づくりに努めていく。

またマタニティホームでは親子 café を定期開催し、卒業生や母子の夜ごはん提供と居場所づくりを開始していきたい。親子 café では、入居者や卒業生に協力を得ることで、雇用を生み出すことも考え、経済面の支援とともに、役に立つという経験を得てもらうことも考えている。

## 2024 年度事業計画

事業名	事業内容
会議の開催予定	
総会	1回（6月頃）
理事会	年4回
運営委員会	月1回
連携会議	年2回（6月、3月頃）
小さいのちのドア支援事業	
相談支援事業	思いがけない妊娠やもう育てられないと追い詰められた女性のための相談支援を継続する。24時間365日電話や来所、メール、SNSなどあらゆる方法でいつでも相談することが出来る。2024年度も引き続き兵庫県・神戸市の妊娠SOSとしての相談事業も実施していく。
同行支援	ドアに相談に来られた方の病院受診や行政窓口、関連団体への同行支援を行い、必要な支援につなげていく。妊娠から出産、産後に至るまで女性と小さいのちが前向きに歩める一歩を踏み出せるまでサポートを行う。
妊娠出産支援	妊婦健診や出産の支援と、準備クラスなどを開催し、産前産後安全に安心して過ごしていけるように支援を行う。費用面での支援が必要な場合は、兵庫県の事業もしくは小さいのちのドアから支援を行い、安心して出産できるように経済面でも整えていく。
来所支援	小さいのちのドアに来所するハードルを少しでも下げられるように、必要な方には来所時の交通費支援を行う。
生活支援	マタニティホーム Musubi を運営し、行き場を失い、頼ることのできない妊産婦のために、産前産後の期間、安全で安心できる温かい場の提供を行う。 昨年度より兵庫県の特定妊婦等居場所確保・自立支援事業を受託していることもあり、産後1年程度までの支援を継続し、自立支援計画の策定を各関係機関と連携しながら、実施し、自立に向けた個々のステップを踏みながらできる支援のかたちを強化していく。
自立支援	小さいのちのドアにつながった妊産婦が、幸せにこれから生きていくためにも、自立できる環境づくりを支援していく必要がある。就学や就労支援を、シングルマザーを応援している企業や団体と連携しながら、自立を目指してい

	<p>く。</p> <p>2022年度からは県の事業となったこともあり、社会福祉法人経営者協議会との連携を図ることができ、その他の企業や団体との繋がりも拡大している。さらに職種が広がるように、社会で自立まで支える仕組みづくりがなされるように、より一層の連携強化を図りたい。</p>
アフターフォロー	<p>卒業生が地域の中で孤立しないように、寄付のおすそ分け支援や卒業生向けのイベントの開催（クリスマスやお正月など季節の行事の際に実施予定）、またマタニティホームでの親子 cafe の開催で居場所を提供するとともに、雇用の機会としても活用していく。</p> <p>また卒業生がつながっている行政や地域の支援団体と連携を図り、地域移行がスムーズに行われるように連携強化していく。</p>
妊産婦ホームステイ	<p>関わる妊産婦の多くは家族との関係不和、機能不全の中で帰る場所のない方が多い傾向があるため、マタニティホームが一つの帰る場所になればと活動してきたが、社会の中に第二の我が家が作られ、社会全体で支える仕組みづくりができたらと思い、妊産婦ホストファミリー支援を始め、いつでも帰れる我が家を社会の中に創っていく。</p> <p>妊娠中にホストファミリーとマッチングさせ、交流を図りながら、産後マタニティホームからホームステイ先として利用もしくはステップハウス等に移った際に、週末ホームステイを利用する。期間は産後1年までを想定しているが、運用しながら、支援のかたちも検討していく。</p> <p>妊産婦ホームステイ創設にあたり、ホストファミリーの研修体制を整え、募集も継続していく。</p>
アウトリーチ	<p>居場所カフェを三宮や尼崎、姫路など兵庫県下の主要都市部で開催し、行き場を失い、夜の街をさ迷う女性たちの支援を定期的に行っていく。</p> <p>1～2か月に1回程度を予定。</p>
性教育	<p>コロナ禍で制限がここ数年あった中で、昨年度は制限も緩和され、今年度はさらに充実させていくことができると考えている。</p> <p>また性に向き合い、からだやこころ、人生に向き合い、自分自身や身近な人たちとの関係を見つめなおせるように、</p>

	自立を目の前にしている世代であるZ世代へのプレコンセプションケアを実施し、性教育、健康教育の充実を図る。
里親・縁組相談支援	里親制度、特別養子縁組への理解と支援の輪が広がるように、啓発を行いつつ、興味のある方や希望者を中心に、勉強会を実施。必要時、特別養子縁組団体や里親支援団体につないでいく。
スタッフ研修会	小さいのちのドアのスタッフや希望者に向けて、定期的なステップアップ研修や養成研修を実施し、質の高いケアが実施ができるようにスキルアップを目指していく。
ボランティア研修	生活支援の中で、ボランティアとして活動に参加希望者向けに研修を実施し、ボランティア登録を行う。
セミナー	小さいのちのドアの活動や緊急下の妊婦支援などに興味関心のある方を対象に、いのちのセミナーを定期的実施していく。
積極的周知・広報活動	支援の必要な女性が支援につながるできるように、SNSやメディアなど積極的に活用していく。 また産婦人科などへのポスター設置の協力とヘルプカードの設置を24時間開いている場所やネットカフェ、ファミリーレストラン等設置できる場所を増やしていく。
連携強化	役割分担、共通認識を持つために定期的な連携会議やケース会議、またトラウマケアなどの研修会を実施し、対象理解を深め、連携機関との交流を深めていく。